

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077400143
法人名	医療法人聖峰会
事業所名	グループホームひまわり館
所在地	福岡県久留米市田主丸町田主丸1004-1 (電話) 0943-72-9512

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	H22年 2月 3日	評価確定日	H22年 3月 31日

【情報提供票より】 (平成22年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算 0人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	(有)(100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	450 円
	夕食	530 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,380 円		

(4) 利用者の概要 (平成22年1月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田主丸中央病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は平屋建てで、耳納連山を臨める住宅地の中に立地している。敷地内には同法人の介護老人保健施設や居宅介護支援事業所が併設され、道路を挟んだ先には同じく母体法人の病院がある。事業所のリビングは大きな梁の吹き抜けになっており、木のぬくもりが活かされ、開放的で明るい。一角には掘りごたつを有した和室が設置され、利用者は思いおもいに寛がれている。管理者と職員が一体となって和やかな雰囲気です。ケアにあたり、また、母体法人の病院から定期的にリハビリ専門員が訪問される等、利用者・家族等が安心して過ごせる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、改善計画シートを作成し、改善計画を立て人権教育に取り組む等、一部取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が全職員の意見を聴取し、集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は開催しているが、2ヶ月に1回の開催には至っていない。現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告し、委員から意見や要望を聴取するように努めている。委員の意見で、マッサージやメイク等のボランティアの受け入れや、より地域に根ざした事業所となるように共に考える等、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置している。家族来訪時に声かけする等し、積極的に家族等の意見、不満、苦情を聴取するように努めている。また、利用開始時に事業所以外の第三者相談窓口について説明し、玄関にポスターを掲示している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、道路愛護や公民館掃除、祭り等、地域活動や行事に参加している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域とともに…」と地域密着型サービスの視点がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関正面等の職員が目に留めやすい場所に掲示しているが、理念について職員間で話し合いをする機会が現在設けられていない。	○	管理者と職員は、朝礼やミーティング時に理念から具体的なケアについて意見の統一を図る機会を設け、実践に向けて日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、道路愛護や公民館掃除、祭り等、地域活動や行事に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員の意見を聴取し、管理者が集約している。前回評価での改善課題について、改善計画シートを作成し、改善計画を立て人権教育に取り組む等、一部取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催しているが、2ヶ月に1回の開催には至っていない。現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告し、委員から意見や要望を聴取するように努めている。委員の意見で、マッサージやメイク等のボランティアの受け入れや、より地域に根ざした事業所となるよう共に考える等、サービス向上に活かしている。	○	今後は2ヶ月に1回、運営推進会議を開催してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のみの連携に留まっている。	○	事業所が抱えている問題の相談や現状を報告する機会をつくる等し、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでほしい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関して、一部職員は外部研修を受講している。	○	全職員の制度への理解を深め、要・不要に関わらず利用者や家族へ情報提供をしてほしい。また、テキスト・研修記録等の資料は、全職員がいつでも確認できるように事業所で保管してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に、暮らしぶりや健康状態等を報告し、緊急時には、家族等へ電話等で状況報告をしている。金銭管理については、年2回及び家族等の希望時に、出納帳のコピーや領収書を送付または手渡ししている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族来訪時に声かけする等し、積極的に家族等の意見、不満、苦情を聴取するように努めている。また、利用開始時に事業所以外の第三者相談窓口について説明し、玄関にポスターを掲示している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、会食時や日常的に職員へ言葉かけを行い、コミュニケーションを図る等して、異動や離職を抑える努力をしている。職員が離職した場合、利用者のダメージを防ぐために、職員間の引継ぎ期間を十分に設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、教育訓練、資格取得等、職員の自己実現が出来るよう安心して働き続けられる職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育について、一部職員は外部研修を受講し、また全職員で内部研修を実施している。テキスト・パンフレット等がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員に学ぶことを推進している。外部研修受講者は、日常的に他の職員へ報告し、また、毎月、内部研修を行っている。</p>	○	<p>研修資料は、職員が日常的に学ぶ機会を確保できるよう事業所で保管してほしい。</p>
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者ネットワークに加入している。管理者や職員は、主に法人内で交流を図り、サービスの質の向上に努めている。</p>	○	<p>加入しているネットワークを通じ、法人外の同業者とも交流を図り、サービスの質の向上に努めてほしい。</p>
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学や体験入所、訪問等を行い、馴染みの関係を築くよう家族等と相談しながら工夫している。やむを得ず即利用の場合は、本人が場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族の協力や職員が声かけを多くする等、工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者から料理や季節毎の行事等、生活の技や知恵を教えてもらう場面がある。また、職員の仕事を進んで手伝ってもらったり、ねぎらいの言葉をかけられる等、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、日々の関わりの中で利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。また、意思疎通の困難な利用者には、表情や行動等から利用者の思いを推し測り、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、利用者・家族の思いや意向及び全職員の気づきを取り入れ、個別具体的に作成している。家族へ説明し、同意の署名・押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回または利用者の状態変化や状況に応じて介護計画を見直し、その都度家族等へ連絡している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した際に、本人・家族・医療関係者と連携を図り、早期退院に向けた支援をしている。利用者にとって負担となる受診や入院の回避に努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医での受診を支援している。受診時の通院方法、情報の伝達方法について本人・家族と話し合っ合意し、状況に応じて柔軟に支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について事業所の方針があり、利用開始時に家族へ説明を行い、同意書を作成している。利用者・家族の意向を大切にしながら、医療機関、職員で話し合い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修等で全職員の意識化を図り、諸場面での声かけや対応について日常的にプライバシーの確保を心がけ、ケアを実践している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調等に配慮しながら、散歩、買い物等、その日その時の気持ちを尊重し、支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に食事の準備や片付けをしている。職員は、利用者と楽しく会話しつつ見守りと介助をさり気なく行い、利用者と同じものを同じテーブルで食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望に合わせて柔軟に支援している。入浴拒否の利用者には、声かけやタイミングを計る等して臨機応変に対応し、入浴を楽しめるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来ることや得意なことを把握し、調理の下ごしらえ、漬物漬け、掃除、畑仕事や針仕事等、楽しみごとも含めて一人ひとりに支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望また天候等に配慮して、散歩や買い物、外食等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室は施錠していない。全職員は鍵をかけることの弊害を理解している。職員は利用者の外出意向を把握し、見守る等して利用者の気分転換を図り、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。また、自動通報システムを設置し、消防署へ連絡が取れる体制を整えている。地域住民に参加協力を呼びかけている。	○	今後は非常時に備え、非常用食料や飲料水、備品を、事業所独自で準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録が全利用者分ある。献立は、栄養士が中心となり、利用者の嗜好を考慮して作成している。	○	水分摂取量についても全利用者分を記録し、利用者の健康管理に努めてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者作品の習字や職員との協働して作成したちぎり絵等を飾っている。また、一角にある和室には掘りごたつを設置し、利用者が寛げるよう配慮している。不快と感じられる音や光はなく、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、和室と洋室が選択でき、利用者の馴染みの筆筒、時計、手芸品等を持ち込み、本人が安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。